

yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No. 50
平成19年9月18日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

センセイコール (9)

12) 入力した仮名を漢字やカタカナにしようとしたら、空白が挟まった

仮名を漢字に「変換」するには、一般的にはスペースキーを押します。

ここで、間違えないでいただきたいのは、「仮名 漢字」だけが変換ではない、ということです。変換とは、入力した文字を、日本語（文章）として適切な文字種に変える、という意味で、変換結果は仮名、漢字、カタカナ、アルファベット、記号など、さまざまです。

スペースキーを押して変換できる、というのは、**未確定**文字（変換結果が採用されていない状態）がある場合に、スペースキーに変換機能が対応づけられている、ということで、別のキーを変換キーにすることも可能ですが、一般的には、使いやすい位置にあるスペースキーが変換キーとして登録されています。

文字入力状態（点滅する縦棒：文字入力カーソルがある）で未確定文字がない場合には、スペースキーは「空白文字の挿入」の意味を持ちます。つまり、スペースキーを変換操作として押すときに、画面に変換対象として表示されている文字が、「未確定状態」でなくてはならない、ということです。

未確定状態は、変換システムによって表示のされ方が異なります。点線で下線が付いたり、青い文字だったりします。使っている変換システムの表示を覚えて、未確定状態かどうか、直感的にわかるようになっているのがいいです。

変換システムが複数コンピュータに登録されているときは、未確定文字がない状態で Ctrl+Shift を押して切り替えることができます。

ちなみに、文字入力状態でない場合には、スペースキーは特別のキーとして機能する場合があります。それは、Enter キーだったり、クリック操作だったり、PageDown だったりします。スペースキーは大変押しやすいので、その時々でコンピュータ操作をスムーズに行うのに役に立ちます。少しずつ紹介していきますので、使ってみてください。